

# 放送技術 講習会 テキスト (8/12) No.①

皆さん こんにちは、県立六ツ川高校 OB の日置秀馬です。  
一年生の皆さんにとっては初めての夏の講習会だと思いますが、  
まずは基本的なことからやっていくので安心して下さい。  
今年の初め(1~3月)にも同じことをやっているので、中にはもう  
内容を知っているという人もいるかもしれません。そういう人は、  
もう一度確認する…という意味で、知らない人は、ぜひこの機会に  
覚えて帰って下さいね。

というわけで、まずは…。

○1日目のテーマ … 「呼吸・発音の基礎知識とそのトレーニング」  
です。

・ こ本を見て、「え、? 声は出さないの!?'と思つた人も多いハズ…。  
でも先に、「呼吸」について知っておかないと、良い発声、正しい発声は  
出来ないので。声を出すことだけをアナウンス、朗読の準備として  
考えるよりも、呼吸を準備として考える方が良いと思います。  
呼吸がしっかりしていると、「自分の声を支えることが出来る」のです。

※このことについては、別ページにて説明します。↑

・ では呼吸のトレーニングをする前に…。

◎ストレッチ(上半身)をしよう。

①首のまわり、②肩、ウデ、③上に軽くとが。 → いいよ、いいよ、いいよ  
・ 本当は全身をやった方がいいのですが、とりあえず今回はここまで。  
恐らく一番やくなってしまい易い部分はこの部分なので、覚えておくと良いでしょう。

## 。腹式呼吸について。。

・今回、専門学校の授業中に聞いたワリントンにこんな説明がありましたので、その一部を紹介します。呼吸の大切さがわかるはずですよ。

「発声時に不可欠な条件として、息を吸う時間はできるだけ短く、しかも必要にして十分な量の補給を求められます。発声する時は、たくさんの大空気を必要とすることもある、口からの息を併用しなければ足りません。この場合も吸うのではなく、体の外壁を広げる(いわば「体全身」)ことによって、息が自動的に流れ込むように仕向けるのが原則です。」

・さらにこんなことも書いてありました。

「話したり歌うときは、肺に入った空気を出来るだけ長く、しかもスムーズに持続させ、歌や言葉に利用できる方が有利です。空気をたくさん吸うことや肺活量が多いことよりも、いかに効率よく使いこなせいか、という技術の方が大切です。」

・ではどうやってこの方法を手に入ればいいのか...?!

① 日々トレーニングを重ねること。

②感覚を自分の体に覚えさせる。(早い人と遅い人には差がある。僕は自分で判断するのに3~4ヶ月かかる、って...)

\*一度覚えたからといって、常に出来るものではありません。こういふものは日々やつこがないと衰退してしまいます。ホントに2~3日やさないだけで落ちます。

- では次のページから、電車の中でも授業中でも、さりげなく出来るトレーニングを紹介します。

- ・(イスに座るのなら正しい姿勢で!!) イスに座、立ても、女、2112も、フトニで寝2112も出来ます。今回は立ちの状態でやりますか、慣れない内はフトニの上でおお向けでやることをおススメします。

- ・まず...。 ①足を伸ばし、仰向けに寝て、手をお腹の上に置く。
- ②自然な状態で呼吸をして、お腹が上下するのを感じる。  
(この状態が腹式呼吸)
- ③次に思いきり息を吸って止め、背中寄りの胸腹辺りに息が入っているのを感じる。(この状態が自分の吸える息の最大値)

・これを確認したら早速スタート。

### ・呼吸体操

- ①4カウントで許容量まで息を吸い、4カウントで吐きまる。
  - ②4カウントで息を吸い、1カウントで一瞬の内に吐きまる。
  - ③1カウントで息を吸い、4カウントで吐きまる。
  - ④ " 8カウントで吐きまる。
  - ⑤ " 5カウントキーして、8カウントで吐きまる。
- ※これを各5~10回ずつやりましょう。

・ではここでちょっと発声してみよう。

普段からトレーニングをしている人も、前傾姿勢でやってみよう。

- 四. A. 腰に手を当てて勢いよく「ハッ！」とやってみる。  
少しおなかの辺りが広がったavez。「うだ」と感じたら、腹式が出来てきている証拠。ただし...!!
- 

### 注意 !!

- ①ただ単に力んでいいだけでも、これは出来てしまう。  
でではなく、風船、膨らませて押していく感覚。  
ザチザチの筋肉にしては出来づらいとは言えない。  
(僕はこれまで長い時間を費しました)

・さらに進むと…。

- ・「やった！おなかがふくらんだ！」こ木だけではダメ。次は背中で、今やった所のウラ側を感覚としてとらえてみよう。
- ・さらにこれは横、腹。ここも繰り返して感じられて、もう大体のことは出来ています。あとは日々のトレーニングで、この感覚をつかんでいい下さい。

◆要するに、おなかだけを意識するのではなく、「体」を意識する。

・質問コーナー。

- ・Q …呼吸をする時、トレーニングをする時、どこを意識するべきなの？
- ・A …「丹田<sup>たんてん</sup>」といふ部分。おへその下の辺り。  
お腹といふより下腹部に近い。これを意識することで、息が深くなり、トレーニングの成果も上がる。

◆専門学校の先生にも聞かせてみました！

- ・Q …「放送部関係の高校生に、発声を教えるのですが、この時期に注意すること、これだけは気を付けることはありますか？」
- ・A …「うん…高校生の発声、これはね、体を絞って発声してしまうんですよ。がんでます、体を広げ、絞りこまない発声をして下さい。  
横隔膜を広げる、ということです。体全体を使って下さい。）ドヤ胸だけでは駄目です。発音に関しては一語一語までいい感じ下さいね。  
すぐには出来ないので、根気良くやってみて下さい。」

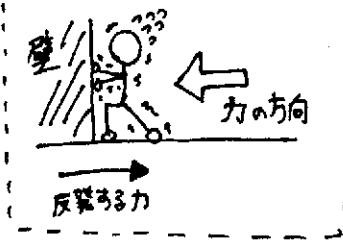
ちなみに、先日久々に教えて頂いた所、僕の欠点を見つけてもらいました。

- ① 下アゴを下げる。（下すると口が開く） ② 口の奥を広く開げる。
- ③ 鼓膜がまだ足りない（首の後ろをイメージ）

続けて…。

冒頭でも触れた、「自分の声をえく」とは…？

- ・これは、あくまでも僕が授業内でやったことを自分なりにまとめたものなので、  
「えく」という単語は、ヴォイストレーニングの教本や先生方も使う言葉なので、  
ぜひ覚えておいて下さい。
- ・カニタニに言うと、こんなカニニ…。

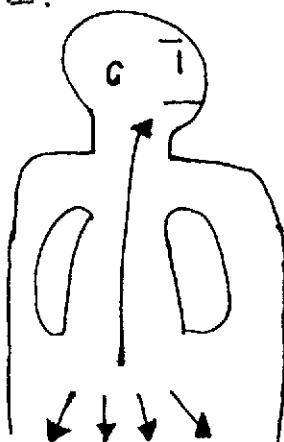


- ・右の図の様に、力が加わると反発しあう力が生まれます。  
これは、呼吸にも言えることで、腹を利用して、  
自分の声を安定した、それでいて良く響く、通る声が  
出せる様になるのです。

- ・やり方はカニタニ！ 上の図と同じ様に、壁に向かって息(または声を)吐きながら  
押せばいいのです。これによって、先程紹介した「丹田」に力を届きやすくなります。

各上の原理を体で説明すると…。

四.



- ・息は通常、右の様に上へ向かっていまますが、腹式、及び  
えく、という場合には、下に向かってもいきます。  
これによつてお腹がふくらむのですが、このふくらみをキープ  
する力を、「えく」と考えていいでしょう。

これが出来ると、自分の声が全体に響き、安定してよく通る様になります。

これが、「自分の声をえくことが出来る」ということなのです。

。次は発音。

No. 6

- ・までは…。「あ」という形をはっきりとさせる。(手の甲が入る程度)
  - ・それを知たら、次は母音です。(あ~お)

## 本口の開き方。



②上の丸の大きさを目安に、口を開けてみましょう。

## ④ 舌の位置

「イ」、「エ」は右の先か  
上がり、「ア」は水平  
「オ」、「ウ」は右の奥か  
上がる。

